

研究テーマ

小・中学校社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の在り方（1年次）

この研究は、佐賀県教育の基本方針「確かな学力を育む教育の推進」政策を受け、県内児童生徒の学力向上に寄与するために取り組んでいます。

今年度、県内を2地区に分け、研究委員が公開授業を行いました。この公開研究授業を通して、社会科の授業改善に向けた授業プランを提案しています。

《提案1》

意思決定を取り入れた討論型の学習(社会的な思考力・判断力・表現力を育てる単元構想)

- ・社会科の究極のねらいとされる「公民的資質の基礎を養う」ために、一単元ごとに、目標、内容が定められており、単元を通して目標を見据えた指導を行わなければなりません。今回提案する指導法は、全単元で行ってもらうことをねらっているわけではありません。学期に1, 2単元でも取り組んでいただければよいと考えています。
- ・意思決定とは、「児童生徒が身に付けた社会的な見方や考え方を基に、社会の在り方や社会への関わり方などについて自分の考えをもつこと」と考えています。その際、「社会にとってよいことか」や「どのような社会が望ましいのか」など社会的な価値を意識し、判断していくことが必要だと考えます。
- ・今回の研究では、対立した社会的な価値を取り上げ、討論によって自分の考えを深めさせることをねらっています。自分の考えが深まった姿とは、対立した社会的な価値の両面を考慮している姿(多面的・多角的に考察する姿の1つ)と考えています。
- ・討論型の学習とは、ディベートだけではありません。教師が考え方を指導する場と考え、様々な方法があります。
- ・思考力(多面的・多角的に考察する力)・判断力(社会的な価値を意識した意思決定をする力)・表現力(思考したこと、判断したことを発言したり、記述したりする力)を総合的に育成できる単元構想【図1参照】が必要と考えています。

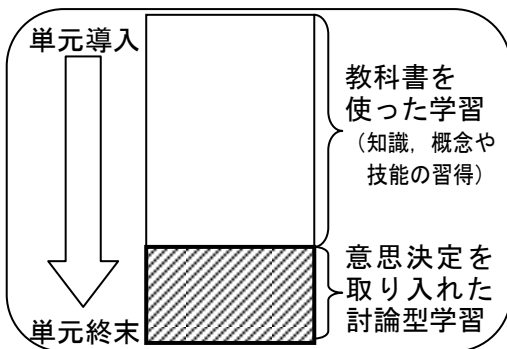


図1 単元の指導過程のイメージ

※単元の構想パターンは様々ありますが、今回の研究のポイントは「取り組みやすさ」です。
「考えさせる学習はどうすればいいの？」
「社会科で何を考えさせたらいいの？」
「どんな問題をどのように取り上げるの？」
「話をさせたいけれど、なかなか盛り上がらなかった」
「ペーパーテストにないので、どう評価していいかわからない」など、先生方から寄せられる疑問や質問に答える提案を目指しています。
そこで、討論の前の段階に焦点を当て、問題を明解にする手立ての研究を行っています。

以下は、公開授業1の指導案から《提案1》に基づいた単元構想を掲載しています。

平成25年10月18日(金) 有田町立大山小学校 授業者 教諭 大宅 武男(研究委員)

1 単元名 第6学年「新しい国づくりは、どう進められたの」(日本文教出版)

2 単元について

本単元は、学習指導要領内容(1)の「キ 黒船来航, 明治維新, 文明開化などについて調べ, 廃藩置県や四民平等などの諸政策を行い, 欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること」と「ク 大日本帝国憲法の発布, 日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展などについて調べ, 我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること」を受けている。

江戸時代末期, いわゆる鎖国を行っていた日本は欧米諸国の要請に屈し, 開国した。そして, 日本は欧米諸国と不平等な条約を結ぶことになってしまった。明治期に入り, 新政府は西洋の文化や制度を取り入れることで近代化を図った。その結果, 清やロシアに戦争で勝つほどまでに国力を充実させ, 欧米諸国に認められ, 条約を改正するに至った。しかし, 日本が近代化した背景では, 不利益を被ったり, 犠牲となったりする人々がいたことも事実である。したがって, 国家の立場からだけではなく, 様々な人々の立場を基に, 新政府による政策がどのような影響をもたらしたのかを考えさせることで, 多面的な見方や考え方を養うのに適した単元であると考えられる。

本学級には, 歴史に興味をもっている児童が多く, 事前の調査によると, 児童の8割が歴史の学習が好きだと答えている。また, 児童の9割が, 歴史上の人物や出来事を基に話し合うことが好きだと答えている。しかし, 友達が主張する考えに対して, 内容を受け止め, 反応することができる児童は少ない。これは, 児童が話し合う目的を把握できておらず, 友達の主張が論点に沿っているのか理解できないまま, 取り組んでいたことが考えられる。したがって, 児童のこれまでの学習経験から, 社会的な問題を見出すことに困惑することが予想される。内容に関わる事前の調査では, 日本が物事を決めるときに大切にすべきなのは何か問うたところ, 児童の33%が国益, 67%が不利益を被る人がいないことと答えている。このことから, 「日本の発展」と「国民の生活」のどちらを優先すべきかを考える際に, 意見の偏りが生まれることが予想される。

指導に当たっては, まず, 黒船の来航から大政奉還までの歴史的な事象を調べ, 事象を関連付けながら江戸幕府が倒れた理由を考えさせる。その後, 明治政府にとっての課題を予想させることで, 「欧米諸国と結んだ不平等な条約」と「外国との力の差」を捉えさせる。これにより, 明治政府による国づくりの目標を明確にし, 学習問題「大政奉還後, 日本の政治や人々の暮らしは, どう変わっていったのだろう。」を設定する。次に, 明治政府による国づくりの方針として発布された五箇条の御誓文を基に, 明治政府がとった中央集権化, 富国強兵策について, 廃藩置県や徴兵令など具体的な改革や政策ごとに調べさせる。この際, 「どんなこと(内容)」に加え「なぜ, 何のために(理由)」, 「これによりどうなった(結果)」の視点で調べさせることで, 国づくりの目標と関連付けながら捉えさせていく。これにより, 不平等な条約の改正や産業や科学の発展など, 日本が近代化していき, 国際的な地位を向上させることができたことに気付かせる。さらに, 明治政府の改革や政策の結果について, 様々な立場や視点から「よかった点」と「問題点」をまとめさせる。この際, 「よかった点」と「問題点」の両面を対比させ, その理由や対象を問うことで, 「国の利益」と「国民の生活」を見出させ, 対立していることに気付かせる。最後に, どちらを優先すべきだったかについて討論を行い, 意思決定をさせる。これらの活動を通して, 明治政府が「日本の発展」を優先した理由と, 対比した「国民の生活」の安定を求める理由のどちらの考えも踏まえて判断させることで, 多面的な見方や考え方を育てたい。また, これが現在の日本の政策を考える視点となり, 社会参画への基礎や国を愛する心情を培っていきたい。

3 単元の目標

黒船の来航から条約改正にかけて、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国力が充実し国際的地位が向上したことについて、ペリーや明治天皇などの人物の働きや歴史的事象との関連を年表や絵図、文章資料などを活用して具体的に調べることを通して、現在の自分たちの生活や国家・社会の発展の基盤になっていることを理解し、現在や未来の発展へ生かすことを考えることができるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
黒船の来航から条約改正にかけて、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国力が充実し国際的地位が向上したことに関心を持ち、具体的な政策や人物の働きなどを意欲的に調べている。	黒船の来航から条約改正にかけて、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国力が充実し国際的地位が向上したことについて、それらに関わる事象や人物の働きなどを関連付けて適切に表現している。	年表や絵図、文章資料などを活用して、黒船の来航から条約改正にかけて、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国力が充実し国際的地位が向上したことについて必要な情報を集め、読み取っている。	廃藩置県や市民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かっている。 日本の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かっている。
明治政府の目指した国づくりと影響を受けた国民の生活とを比較したり、総合したりして、過去の出来事を現在や未来の発展に生かすことを考えようとしている。	明治政府の目指した国づくりと影響を受けた国民の生活とを比較したり、総合したりして、過去の出来事を現在や未来の発展に生かすことを考え適切に表現している。	黒船来航以来、日本の近代化に関わる政策や人物の働きについて、文化財、地図や年表、その他の資料から必要な情報を集めて読み取っている。	黒船来航により、日本が開国し、明治政府が近代化を進めたことやその結果国際的地位が向上したことが、現在の自分たちの生活や国家・社会の発展の基盤になっていることを理解している。

5 単元計画（全11時間 本時10/11）

過程	主な学習活動	教師の働きかけ	【主な評価】	時配
学習問題をつかむ	○ペリー来航後、江戸幕府がとった対応を調べ、どのようにして幕府の力が衰え、大政奉還に至ったかを考える。 ○明治政府にとっての新しい国づくりの課題を予想させる。	○幕府に対する不満や倒幕への流れを捉えさせるために、幕末に活躍した人物の活躍を調べさせ、不満を視点に関連付けながら考えさせる。 ○幕府への不満や不平等な条約の内容から日本にとって不利益となるものを読み取らせる。この際、児童が予想した新しい国づくりの課題や疑問に思ったことを基に、学習問題を設定する。	○ペリーの来航後の幕府の対応や武士による政治の終焉に関心をもち、学習問題を考えている。【関	1
《学習問題》大政奉還後、日本の政治や人々の暮らしは、どのように変わっていくのだろうか？				

調 べ る	<p>○五箇条の御誓文の内容から、新しい国づくりの方針を調べる。</p> <p>○明治政府が行った主な改革や政策について調べ、政治や社会の仕組みをどのように変えていったのか考える。</p>	<p>○江戸幕府への不満や不平等な条約と関連付け、新しい国づくりの方針を理解させるために、五箇条の御誓文を児童の予想と照らし合わせながら読み取らせる。</p> <p>○具体的な改革や政策の目的と内容を関連付けて考えさせるために、内容、理由、結果を視점에調べさせる。</p> <p>○調べさせた改革や政策を、目的に応じて中央集権化と富国強兵に分けて示し、これらが欧米諸国に早く追いつこうとしていたことを考えさせる。</p>	<p>○新政府が富国強兵策を進め、欧米諸国に早く追いつこうとしていたことを具体的な改革や政策の目的を関連付けて考え、適切に表現している。【思】</p>	1
	<p>○四民平等について、江戸時代の様子と比較しながら調べる。</p> <p>○蝦夷地や琉球の様子について調べる。</p>	<p>○江戸時代の身分制度と対比させることで、人々のくらしの変化や、差別が残っていたことに気付かせる。</p> <p>○中央集権化により、蝦夷地から北海道へ、琉球藩から沖縄県へと改称され、政府の統治下となったことをおさえる。</p>	<p>○社会のしくみの変化に気付くとともに、差別が残り、差別をなくそうとする運動が起こったことを説明している。【知】</p>	1
	<p>○文明開化によって、人々の生活は、どのように変わったのか調べる。</p>	<p>○人々の生活の変化に気付かせるために、江戸時代後半と明治時代の初めとを町の様子や学校の様子の絵を対比させ、服装や建物などの視点を基に調べさせる。</p>	<p>○絵図から、人々の生活の変化を読み取っている。【技】</p>	1
	<p>○新政府の政治に不満をもつ人々は、どのような活動をしたのか調べる。</p>	<p>○演説会の様子を描いた絵から当時の状況を読み取らせ、政府に不満をもつ人々がいたことに気付かせる。</p> <p>○板垣退助や大隈重信、西郷隆盛、伊藤博文の働きについて、内容と理由を視점에調べさせ、関連付けることで、人々の不満が国会開設や憲法発布へつながったことを理解させる。</p>	<p>○自由民権運動の広がりにより、議会の開設につながっていったことや憲法の制定によりアジア初の立憲政治国家になったことを説明している。【知】</p>	1
	<p>○大日本帝国憲法は、どのような特色をもつ憲法か調べる。</p>	<p>○主な条文から立場を視点に読み取らせることで、天皇に主権があり、議会や国民の権利は弱いことを捉えさせる。</p>		
	<p>○日清・日露の戦争が起こったことを知り、原因と内容、結果について調べる。</p>	<p>○日清・日露戦争の風刺画や絵などを基に、戦争が起こった状況や原因を調べさせ、文書資料を基に結果として日本が勝利したことが、欧米諸国に日本の力を認めさせることになったことに関連付けて読み取らせる。</p> <p>○賠償金の使い道のグラフを読み取ることで、日本の軍備が更に拡張されたことに気付かせ、これにより、人々の不満が出たことにも触れておく。</p>	<p>○日清・日露の戦争についての風刺画や絵、地図、グラフなどから、日本が清やロシアと戦争を行った原因と内容、結果を読み取っている。【技】</p>	1

	<p>○遣欧使節団や陸奥宗光、小村寿太郎などの業績から条約改正の流れとその背景を調べる。</p> <p>○日露戦争後の韓国に対する日本の動きを調べる。</p> <p>○工業の発達とその問題点について調べる。</p>	<p>○ノルマントン号事件の風刺画や内容から不平等な条約の内容を想起させることで、条約を改正しようと努力した人々の働きに着目し、調べさせる。</p> <p>○朝鮮を植民地にしたことで、日本の力を付けたこと誇示できた反面、民族としての誇りを傷つけたことや朝鮮や中国の人達への差別の意識が残っていることに触れておく。</p> <p>○工場数の増加のグラフから日清戦争後に急激に工業が発達したことを読み取らせる。一方で、公害の学習を想起させたり、労働時間を読み取らせたりすることで、弊害についても触れておく。</p>	<p>○条約の改正，韓国併合，重工業の発展と日本が国内外での力を付け，欧米諸国と対等な地位を築いたことが説明している。【知】</p>	1
	<p>○北里柴三郎や野口英世などの業績と医学の発展について調べる。</p> <p>○教育勅語によって，教育がどうなっていったのか調べる。</p>	<p>○科学の発展とともに，医学や文学などが発展したことに触れ，現在の文化や教育との繋がりを意識させる。</p> <p>○個人よりも国を大切にす国家主義の教育が強まったことを捉えさせる。</p>	<p>○欧米文化が取り入れられ，科学の進歩とともに，文学・美術・音楽などの文化や教育が広まったことを理解している。 【知】</p>	1
考え・まとめる	<p>○明治政府による政策を振り返る。</p> <p>○明治政府が行った主な政策のよかった点や問題点を考える。</p> <p>○論題に対して，自分なりの考えをもつ。</p>	<p>○ 明治政府が行った改革や政策を総合的に振り返るために，目的や内容などを表にまとめさせながら確認する。</p> <p>○ 「徴兵令」，「地租改正」，「殖産興業」，「学制」について，様々な立場や視点に立って，よかった点や問題点を考えさせる。これにより，「国の利益」を優先した一方で，「国民の生活」に不満が募ったことに気付かせ，この対立点から論題を設定する。</p>	<p>○様々な立場や視点から見た明治政府の諸政策のよかった点や問題点を踏まえて総合的に考え，自分なりの根拠を基に政策を評価している。【思】</p>	2 本時 (2/2)
	<p>○明治政府による政策について評価し，討論をする。</p> <p>○討論した内容を加味して最終的な意思決定をする。</p>	<p>○論題について，自分の考えの根拠を基に討論させることで，考えの違いや根拠の違いから明治政府の改革や政策について深く考えさせる。</p> <p>○考えの深まりには，根拠が増えることや変わることがあることを伝え，討論して学べたことを価値付ける。</p> <p>○現在の社会にも同じ様な価値の対立があることに気付かせ，社会への課題意識をもたせる。</p>	<p>○様々な立場や視点から見た明治政府の諸政策のよかった点や問題点も踏まえて総合的に考えたことを適切に表現している。【思】</p>	1
<p>論題 明治政府は国の利益と国民の生活のどちらを優先すべきだったのか。</p>				